

更なる”図書館員力”アップのすすめ

－IAAL 認定試験の軌跡から－

岡田智佳子

特定非営利活動法人 大学図書館支援機構

特定非営利活動法人（NPO 法人）大学図書館支援機構（略称：IAAL）は、「大学図書館及びその利用者に対して、研修及び業務支援に関する事業を行い、大学図書館の継続的発展を通して学術研究教育に寄与すること」を目的として、2007年6月25日、東京都の認証を受けて設立されました。その事業の柱として2009年から「IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験」（以下、IAAL 認定試験）を開始し、今年で11年目となります。

医学情報サービスという、図書館業務の中でも変化の激しい現場で利用者ニーズに応え続けるには、日々の自己研鑽が重要であることは言うまでもありません。その際、最新情報のアップデートは勿論ですが、時には図書館業務におけるベーシックな知識を振り返ることも必要になるのではないのでしょうか。IAAL 認定試験の運営の経験から、それらの自己研鑽のヒントをご提案したいと思います。

IAAL 認定試験は、大きくわけて「情報サービス」と「総合目録」の2種で構成されています。「情報サービス」では、主題を限定しない広い知識を問います。「総合目録」では、NACSIS-CAT の基礎から応用までを問います。NACSIS-CAT といえば、今まさに「CAT2020」とその先にある「2022」へ向けての変化の真っ只中にありますが、目録面の基本はほぼ変わりませんので、これからも IAAL 認定試験の果たす役割は大きいと自負しています。

【試験科目体系】

科目		範囲
総合目録	図書初級	NACSIS-CAT における図書の検索から所蔵登録の範囲
	雑誌初級	NACSIS-CAT における雑誌の検索から所蔵登録の範囲
	図書中級	NACSIS-CAT における図書の書誌登録の範囲
	雑誌中級	NACSIS-CAT における雑誌の書誌登録の範囲
情報サービス	文献提供	利用者の求めに応じて資料を提供する能力

IAAL 認定試験ホームページ：<http://www.iaal.jp/examination/index.shtml>